オールドニュータウンにおけるオープンスペースの利活用に関する研究

熊本大学工学部　学生会員　○北村信太郎　　熊本大学大学院　正会員　星野　裕司
熊本大学工学部　正会員　　増山　晃太　　熊本大学大学院　学生会員　尾野　薫

1.はじめに

1.1 背景

1960、70 年代の高度経済成長期に建設された新興住宅地は建設から 30 年以上が経過し、現在ではオールドニュータウン（以下 ONT）と呼ばれている。この ONT では、少子高齢化、孤独死、施設の老朽化、学校の統廃合などの問題が生じている。

このような問題の解決策のひとつにコミュニティ活動が挙げられる。ONT におけるコミュニティ活動にはその地域に住むほとんどの人が関わる自治会活動がある。これらの一斉清掃や夏祭り、どんどやなどの自治会活動の場として公園、学校の運動場、公民館、街路といったオープンスペースが利用されている。その中でもコミュニティ活動の拠点の一例として、多様な世代が日常的にいつでも利用できる公園に着目する。この維持管理は自治会で行われている場合が多い。本研究での目的は公園の利活用や維持管理に着目することによって ONT におけるコミュニティ活動の現状を把握することとする。また、公園の空間分析を行い、利活用や自治会活動と合わせて考察することで ONT 問題を解決するための一助を得ることを目指す。

1.2 研究の位置付け

公園に関して公園の管理と地域住民の参加協力に関する研究で公園の管理に関する研究[1) 2) 3)]等がある。これらは地域住民と公園の関係を研究したものはあるが、公園の空間分析と公園管理から地域コミュニティ活動を分析したものは見られない。よって、本研究では ONT の公園の空間特性、管理について研究を進める。

1.3 目的

以下に本研究の目的を示す。

ⅰ）公園の空間的特性や利活用について現況を把握する。

ⅱ）公園の維持管理を日常的に行っていると考えられる自治会長などにヒアリング調査をし、管理形態や利用状況の実態把握を行う。

ⅲ）ⅰ）とⅱ）より、空間的特性とコミュニティ活動の関係性を分析・考察し、今後の ONT におけるコミュニティ活動、公園管理のありかたに示唆を与える。

2.研究対象

2.1 研究対象地の概要

熊本市の北東部に位置し楠木団地、永江団地、武蔵ヶ丘団地、泉ヶ丘団地等の合志市、熊本市、菊陽町にまたがる武蔵ヶ丘ニュータウン（以下、NT）。武蔵ヶ丘 NT は昭和 44 年（1969 年）に着工し、昭和 53 年（1978 年）までに分譲住宅 670 戸、公営住宅 2500 戸など合計 3530 戸、人口 14000 人の建設計画が成立。光の森が開発計画区域となる規制区域を逃れたより遠い地域にすずかけ台団地、杉並台団地が先行して分譲。昭和 49 年（1974 年）の都市計画図から第１種、第２種住居専用地域に編入。よってここが熊本のなかでも最古で最大、数多くの団地が合わさってできている NT と判断し、選定した。この中でも合志市の武蔵野台、永江団地、杉並台、すずかけ台、泉ヶ丘を対象地として扱う。**図１**にその建設年代、研究対象地の行政区境界と、市域境界を示す。

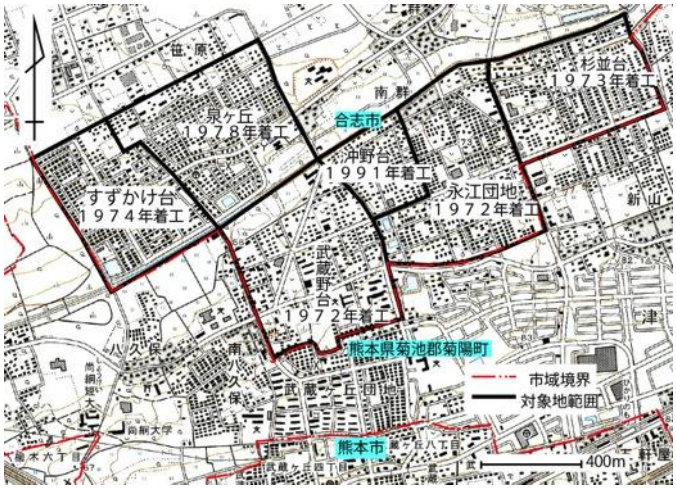

図１　対象地範囲と建設年代

2.2 NT 内の公園

研究対象地内の公園は調査対象となる公園５０ヶ所がある。この５０ヶ所について調査を行う。

3. 公園の空間分析

上で挙げた行政区の公園について平面図、現地調査で分析を行い、管理方法の把握を行う。

3.1 平面図による分析

各公園平面図より図２のように接道状況、樹木の位置、ベンチの位置、出入口の位置を以下のようにプロットし、接道数、出入口数、樹木数、施設種数、ベンチ数を数える。

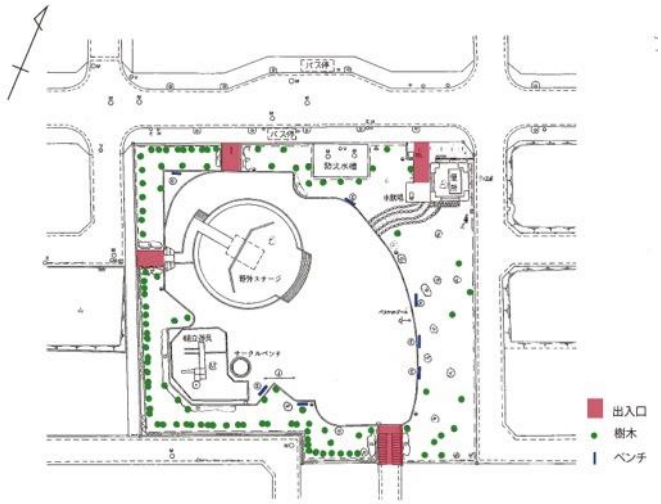

図２　公園平面図（一例）

表１　行政区別の公園数とその他平均値

行政区	公園数	総面積(㎡)	面積(㎡)	接道数	出入口	樹木数	施設種数	ベンチ数	樹木数/面積
武蔵野台	7	1,955	362	2.1	2.1	39	4.0	1.4	0.108
すずかけ台	6	11,553	1,926	3.2	3.7	89	6.0	3.7	0.046
杉並台	10	6,085	609	2.3	1.8	35	3.7	2.4	0.058
永江団地	22	8,786	399	1.7	1.4	21	3.2	1.2	0.051
泉ヶ丘	5	8,279	1,656	3.0	3.2	221	7.2	3.4	0.134

表１では平面図から数えた各要素を１公園当たりの平均値を表したものである。行政区ごとに違いが見て取れる。公園数は永江団地が１番多いが、総面積ではすずかけ台が大きい。また、１公園当たりの樹木数また１㎡当たりの樹木数は泉ヶ丘が多いことがわかる。

3.2 現地調査

平面図と公園の現状を比較して、設備の撤去・新設、樹木の増減あるいは花壇の設置が行われていないかということを現地調査する。

設備の撤去・新設があったのはどんなコミュニティ活動の結果なのか仮説を立てる。

4. ヒアリング調査

4.1 自治会活動の概要

自治会長にヒアリングを行い公園の管理についての管理団体、組織を把握すること、普段の清掃の内容、誰が行っているのかということ、公園で行われている年間行事、NT の情報などを中心に話を聞いた。

4.2 ヒアリングの内容

再度ヒアリングを行い、平面図と現地調査を比較した結果で変化のあった空間的特性についてヒアリングを行う。

5. おわりに

今後は公園の平面図と現地調査による分析を行う。そしてヒアリングをもう一度行っていき、分析考察を行っていく。

【参考文献】

１）井上ちひろ他３名：都市居住地における公園・児童遊園の管理方法に関する研究　日本建築学会計画系論文集　p. p9-15, 2004　２）岩村高治 他１名：神戸市における地域住民による公園管理の実態とその展望　ランドスケープ研究 p. p671-674, 2001 年　３）根来千秋 他１名児童公園等の管理における地域住民の参加・協力に関する考察　日本都市計画学会学術研究論文集 p. p271-276, 1987 年